
東北大学陸上競技部

OB通信

2013年No.6 (2013.11)

- ・ 第 28 回国公立 23 大学対校陸上競技大会
男子総合 5 位、トラック 4 位、フィールド 5 位
 - ・ 第 29 回日本ジュニア陸上競技選手権大会
宮崎幸辰(1)が 200m 決勝で桐生祥秀と同走、3 位入賞の快挙!!
 - ・ 第 31 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会
鈴木絢子(3)、宮間志帆(2)が東北学連選抜チームとして出場
それぞれ 5 区、3 区で快走
 - ・ 秩父宮賜盃第 45 回全日本大学駅伝対校選手権大会
東北大学は総合 21 位、5 時間 47 分 33 秒
 - ・ フランスレンヌ市で開催された「全レンヌを走る日」に宮間志帆(2)が参加
-

- ・ 秋季三秀総会のお知らせ
日時 12 月 21 日(土) 16 時～ (幹事会: 15 時～)
場所 東北大学理学部キャンパス物理大講義室
-

- ・ 第 42 回東北学生陸上競技選手権大会 2～3 ページ
- ・ 第 28 回国公立 23 大学対校陸上競技大会 3～11 ページ
- ・ OB 対現役対抗戦 12～16 ページ
- ・ 「全レンヌを走る日」 16 ページ
- ・ 第 29 回日本ジュニア陸上競技選手権大会 17 ページ
- ・ 第 31 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 17～18 ページ
- ・ 秩父宮賜盃第 45 回全日本大学駅伝対校選手権大会 19～23 ページ

- ・ 自己記録更新者一覧 23 ページ
- ・ 秋季三秀総会のお知らせ 24 ページ
- ・ 今後の予定 24 ページ
- ・ 編集後記 24 ページ

向冬の候、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、秩父宮賜盃第45回全日本大学駅伝対校選手権大会の結果を中心に、各大会での選手の活躍をお伝えします。

○第42回東北学生陸上競技選手権大会(10/4～10/6) 於 仙台市陸上競技場

今大会は、上級生はもちろん1年生の活躍もめざましく、上位入賞者が多数となり今後の活躍が期待される結果となりました。決勝の結果一覧を掲載いたします。

種目	組	順位	氏名(学年)	記録
男子400m	—	2位	高林 佑輔(M2)	49" 19
男子800m	—	8位	辻川 優祐(M1)	2' 01" 12
男子5000m	1組	11着	大野 慎也(2)	16' 47" 16
		22着	富田 航(2)	18' 09" 58
	2組	22着	早坂 謙児(1)	16' 23" 99
男子10000m	—	1位	高橋 佳希(2)	30' 52" 40
		3位	藤澤 萌人(3)	31' 49" 41
		10位	早坂 謙児(1)	34' 10" 22
男子110mH	—	3位	工藤 知央(2)	15" 30(+1.3)
男子400mH	—	6位	柴田 智弘(D2)	56" 61
		7位	佐藤 弘隆(1)	56" 94
男子3000mSC	1組	8位	大野 慎也(2)	10' 43" 40
		11着	高橋 慧伍(2)	10' 55" 93
男子10000mW	—	2位	角川 拓也(4)	47' 55" 29
男子走高跳	—	3位	佐藤 颯真(1)	1m88
男子棒高跳	—	2位	高橋 拓実(1)	4m50
男子走幅跳	—	4位	岡崎 和貴(4)	7m11(+0.6)
		8位	鈴木 一輝(M2)	6m70(+0.1)
男子円盤投	—	5位	石川 遼(3)	35m27
男子やり投		3位	杉本 和志(M2)	60m20
男子混成十種競技	—	2位	藤井 翼(M1)	5655点
		4位	岡崎 和貴(4)	5431点
		6位	奥 裕之(4)	4796点
		8位	須藤 海(1)	4468点
女子5000m	2組	3位	鈴木 絢子(3)	17' 07" 48
	タイムレース	6位	宮間 志帆(2)	17' 29" 39
女子走幅跳	—	6位	渡邊 朝美(1)	5m11(+1.9)
女子三段跳	—	4位	渡邊 朝美(1)	10m47(+1.9)
		5位	後藤 文子(2)	9m34(+1.2)
女子円盤投	—	2位	青木 千景(1)	30m20

男子 4×400mR	—	5 位	高林佑輔 (M2)-千葉優人 (3)- - 南共哉 (4)-菅原大志 (2)	3' 18" 38
------------	---	-----	---	-----------

○第 28 回国公立 23 大学対校陸上競技大会 (10/12~10/14)

於 町田市陸上競技場、秋留台陸上競技場

今年は気温が高い中での対校戦となりました。しかしその中でも男子は総合、トラック、フィールド共に安定した成績を残すことができました。

◎トラック

男子 100m 予選

1 組 8 着 竹原大 (2) 11" 88 (-0.9)

スタート数歩目で躓いた印象があったが、姿勢を立て直して低い姿勢で中間疾走に持っていく。腕が力強く振れていた。

2 組 4 着 宮崎幸辰 (1) 11" 00 (±0.0)

圧倒的な飛び出しから頭を上げると、後継をつきはなし、露骨に流してゴール。余裕の走りを見せつけた。

5 組 5 着 阿部耕大 (1) 11" 45 (-1.5)

頭を上げてから伸びがあった。リラックスした走りを持ち味の後半の強みが発揮されたが、ラスト 10m ほどで固くなってしまったように思われる。

男子 100m 準決勝

1 組 3 着 宮崎幸辰 (1) 10" 77 (-0.5)

スタートも安定していたし、他の走者と競ってはいたが、ラストを流して一着で決勝にコマを進めた。

男子 100m 決勝

1 着 宮崎幸辰 (1) 10" 77 (-1.0)

スタートを予選の時と比べて失敗したようで、周囲に先行を許すも、格の違う馬力で追い上げ、最後は前方を差して見事優勝。向かい風 1.0m で 10" 77 の好タイムながらも、本人は少し不満げな様子だった。

男子 200m 予選

1 組 4 着 南共哉 (4) 22" 74 (+2.0)

スタートはスムーズに入ったものの、100m 付近でやや先頭からの遅れをとり、その

ままのスピードを保ったままのゴール。本来の走りを見られなかったように思われる。

4 組 1 着 宮崎幸辰 (1) 22" 45 (+0.2)

スタートから 50m で一気に先頭に立ち、そのまま 100m 付近から流して余裕を持ってゴール。余裕のある走りを見られた。

9 組 6 着 菅原大志 (2) 23" 52 (+0.1)

前半から差をつけられる厳しい展開ではあったが、後半は粘りの走りで前との差を広げられず保ちながらゴール。短長走者の経験をみせた。

男子 200m 準決勝

1 組 1 着 宮崎幸辰 (1) 21" 50 (±0.0)

スタートから飛び出し、100m を過ぎた地点からもそのままスピードを持続させ、150m から流して余裕の一着ゴールで決勝へと進んだ。

男子 200m 決勝

1 着 宮崎幸辰 (1) 20" 91 (+2.3)

スタートから完全に抜け出し、そのまま後続を突き放しながらラスト 50m もしっかりとスピードを保って見事一着でゴール。追い参ながらも 20 秒台を叩き出す走りで 100m との 2 冠を果たした。

女子 200m 予選

4 組 5 着 千葉愛里沙 (3) 28" 10 (+0.7)

スタートからの加速にうまく乗り切れていなかった。後半は粘りの走りをするものの前との差を詰められずそのままゴール。

男子 400m 予選

1 組 2 着 南共哉 (4) 50" 37

スタートからスムーズに加速し外側のレーンの選手を抜き去る。200m地点から周りに追いつかれそうになるが、ホームストレートに入ってからリラックスした走りを保って2着でゴール。

5組1着 高林佑輔(M2) 50" 03

力強い走りで序盤からレースの主導権を握る。ラスト100mで3人と並ぶが、最後までトップを譲らずに1着でゴール。安定感のある走りであった。

男子400m 準決勝

1組3着 南共哉(4) 49" 73

200mまでは他の選手との距離を保ちつつ、力をためた走りで通過する。ラスト100mで再び加速を見せるが前に追いつかず3着でゴール。

2組1着 高林佑輔(M2) 49" 76

前半は周囲の様子を見ながら、リラックスして他の選手との差をじりじりと詰めていく。250mでスイッチが入り加速していき、ラスト50mで前の選手をかわし1着でフィニッシュ。

男子400m 決勝

4着 高林佑輔(M2) 49" 03

予選準決、4継をこなした後にもかかわらず、疲れを感じさせない走りを見せる。200mを通過してからギアが入れ替わり再加速する。ホームストレートで3位争いをして4位でフィニッシュ。

5着 南共哉(4) 50" 29

高林同様、400m2本と4継の後にもかかわらず、いつものように流れるようなきれいな走りでレースを進める。最後までスピードを落とすことなく走り抜いたが、力足らずで5位でフィニッシュ。

女子400m 予選

1組6着 井出桃愛(2) 69" 01

200mまではトップ集団にくらいついていこうとするがじりじりと離されてしまった。ホームストレートでスピードがぐん

と落ちてしまったので、冬季練で克服すればタイムは一気に縮むだろう。

男子800m 予選

2組4着 辻川優祐(M1) 1' 58" 99

100mの地点ではほぼ一直線。うまく集団の外側につき、3, 4番手で一周目を回った。ラップは57~58"。後ろの選手が400mを回ったあたりからスパートをかけてきて抜かされたが、ラスト200mからのスパートで集団の先頭を奪った。しかし、ラスト50mから失速し4位でゴールした。

5組4着 大野良輔(M2) 2' 00" 69

最初の200mでごちゃごちゃしていた集団からトップにたち、スタートから600mまで先頭を引っ張った。2位や3位の選手がでてきてからもなんとか粘ったが、ラスト50mから大きく失速。後続に刺され最終的に4位でゴールした。

7組4着 佐藤洋介(2) 1' 59" 92

スタートで出遅れ、100~200mの直線では集団の内側に入ってしまう、ポケットされて、一周目ずるずると集団後方まで下がってしまった。ラップは59~60"。500m地点からスパートをかけ、前の選手を抜いていった。ラスト200mのスパートにも食らいついていき、4位でゴール。

男子800m 準決勝

辻川優祐(M1) 2' 02" 59

27"と少々ハイペースで200mを走り、400m、600mまで29"後半のイーブンペースで持ちこたえるものの、ラスト1周で周りのスパートについていけず、ラスト200mのラップは35"と大きく落としてしまう。予選を終えてからもスタミナを保って走ることが課題になりそうである。

女子800m 予選

2組6着 井出桃愛(2) 2' 39" 18

スタートから最後尾でレースを進め、ラスト100mで1人抜かして6位でゴールした。集団にはならず、トップは独走、2~5

位の選手も個の力で走るといような散開したレースだった。

男子 1500m 予選

2組 12着 朝比奈祐弥(2) 4' 21" 71

中盤からのスタート。5番手で横2列の外側を走り、400mは65"。500mから前に出て3番手。700~800mで6~7番手に下がり、800mの通過は2' 13" (68")。集団が縦長になってラスト1周で8番手。1200mの通過は3' 20" (67")。そこからペースアップし2人を抜くも、ラスト200mで動きが鈍くなり、4' 21"でゴール。

3組 10着 大野慎也(2) 4' 21" 51

中盤より後ろからのスタート。400mは69"。13人の先頭集団の一番後ろで800mを通過、2' 18" (69")。そこから前のペースアップで集団がばらける。1200mの通過は3' 26" (68")で、ここからペースを上げて2人抜くも、ラスト200mから動きが鈍くなり、3人に抜かれて4' 21"でゴール。

4組 2着 大野良輔(M2) 4' 06" 42

中盤7番手あたりで落ち着いてスタート、400mの通過は63"。300~400mで順位を5番目あたりに上げる。800mの通過は2' 11" (68")。第1集団5人の4番手につき、ラスト1周、集団4人になりその最後尾で1200mを通過、3' 18" (69")。ラスト150mからスパートをかけ、2位4' 06"でゴール。決勝へとコマを進めた。

男子 1500m 決勝

11着 大野良輔(M2) 4' 09" 98

1日に2本1500mを走るのは久しぶりだと本人は話していた。レースは縦長の集団の中盤で、1周目を64"で通過。そのまま800mを2' 11" (67")、1000m付近で集団から徐々に離れ始めるが、ラストは粘りを見せて4' 09"でゴールした。

女子 1500m 予選

1組 13着 卜部仁美(1) 5' 56" 98

集団の後方からのスタート。2人で集団

を作り、ついていく形の展開となった。ラストの周で2人集団の前に出ると、そのまま後方を突き放し、ゴールした。

男子 5000m 決勝

2組 4着 鈴木貴史(1) 15' 44" 76

2組 11着 西京毅(1) 16' 01" 73

2組 13着 早坂謙児(1) 16' 03" 21

3人は3位集団で序盤レースを進める。鈴木、西京は3' 08"、早坂は3' 09"、依然集団で前をうかがう。2000mは6' 20~21"で鈴木が前方、早坂・西京は集団後方に食らいつく。鈴木が3000mを9' 26"で通過、ペースを上げて集団から抜け出る。早坂は9' 34"で通過、ペース維持で、西京は苦しそうだが早坂の5秒後方で粘っている。鈴木が4000mを12' 37"で通過、3000~4000mも苦しうであるがペースをほとんど落とすことなく粘っている。西京・早坂は12' 52"で通過しており、ラストの動き次第では15分台の位置につけた。鈴木がラストも崩れることなくキレのあるスパートで15' 45"、西京・早坂は3000mから互いに刺激し合いラストまでずっと同じ位置に。ラストは西京の方がキレのある走りであったがタイムは16' 01"、早坂は16' 02"で15分台には届かなかった。しかし、諦めることなく最後まで粘った。

女子 5000m 決勝

1組 13着 塩谷美菜子(2) 18' 55" 48

集団の中で最初の1000mを3' 30"で通過。その後は少しずつ順位を落とすものの、数人のグループの中でペースを落としすぎることなくレースを進める。最後までペースを維持しながら18' 55"でゴールした。

男子 10000m 決勝

1組 18着 碓井将也(2) 35' 08" 75

スタートは落ち着いて中盤からのスタート。1000mの入りは3' 06"と少し速め。1000m過ぎから集団がばらけ、8位集団を引っ張る形に。1600m付近から後ろに抜か

れ、2800m過ぎから最後尾に抜かれたが、ついていくことができなかった。その後は給水を有効に使いつつ粘りの走りとなった。

2組11着 進藤克哉(2) 35' 39" 47

縦長の集団の後方からスタート。すぐに13位集団で3人の集団ができ、その真ん中を走る。1000m付近で集団の先頭に代わる、通過は3' 20"。その後4000mまで快調に引っ張るが、先頭が代わり、5000m過ぎには前の人ペースが上がりそれについていくことができなかった。そこからは単独走となるが、ラストは切り換えてゴールした。

男子110mH 予選

2組6着 本間大輔(3) 16" 45(+0.9)

スタートからの1台目入りはよかったが、中盤でハードルを倒し、大股気味になってしまった。スタートがよかっただけにもったいないレースであった。

3組4着 佐藤弘隆(1) 15" 91(+2.4)

序盤から加速してうまくハードリングをこなし、終盤も減速を抑えつつスピードを保ちながら4着でゴール。辛くも準決勝へと進んだ。

4組2着 工藤知央(2) 15" 25(+1.5)

スタートの反応がよく、中盤隣の走者に遅れをとったが、終盤の減速が少なく、リラックスしたハードリングであった。2着でゴールして準決勝へ進出。自己ベストを更新する堂々としたレースであった。

男子110mH 準決勝

1組6着 工藤知央(2) 15" 59(-0.8)

スタートから加速しテンポよく駆け抜けていった。後半少し遅れをとったが最後まで粘りの走りを見せてゴール。しかしながらトップとの差も感じられたレースだった。

1組8着 佐藤弘隆(1) 16" 09(-0.8)

ハードリングのミスは少なかったが、それでも徐々に周りに差をつけられてしまった。しかしながらまだ1年生で多くのレースをこなしてきているので、今後の成長に

期待がかかる。

男子400mH 予選

1組2着 千葉優人(3) 54" 78

100m地点で外側の走者をとらえてからは、終始リラックスした感じの走りだった。ハードリングの着地で状態がのけぞってしまっていた。前半のスピードが上げられれば、タイムもより縮まってくると思われる。

4組2着 工藤知央(2) 54" 35

前半から積極的に、スムーズなハードリングで飛ばし、バックストレートでトップに立つ。ラスト9台目を跳び終えたあたりで抜かれてしまうが粘り切って2着でフィニッシュ。110mHに続き自己ベストの更新も果たした。

6組3着 佐藤弘隆(1) 56" 14

一番内側だったが、外の走者が前半飛ばす中、落ち着いた走りでレースを進行させ、ラストは減速を抑えることができた。だんだん調子を取り戻しつつあるようだ。こちらも自己ベストを更新する走りであった。

男子400mH 決勝

8位 工藤知央(2) 57" 15

前半から積極的に飛ばしていき、200m手前までは周りについていくことができたが、第3コーナーで疲れが見られ失速してしまった。前半の走りとはハードリングはととても良いので、冬季練で体力をつけ、400mのフラットがどこまで伸びるか来季の53秒台も期待できるだろう。

男子3000mSC 決勝

1組14着 南雲信之介(2) 9' 51" 84

スタート後すぐ縦長の集団となり、後方からのスタートとなった。1000mを3' 31"で通過。3つ目の集団の中にいたが1000m過ぎに集団が崩れ、抜け出して前方を追う。2000mを6' 31" (3' 18")で通過。その後前の2人に追いつきそのままゴール。最後の1000mは3' 22"。

2組11着 大野慎也(2) 10' 35" 49

後方からのスタート。1000m通過までにいくつか順位を上げ、中程につけた。最初の1000mは3' 11"。通過後は厳しい展開となる。少しずつ順位を落とし、1000~2000mは3' 35"。苦しい走り方のまま前を追った。ラストの1000mは3' 48"。

2組13着 熊谷駿(1) 10' 40" 53

スタート後は大野(慎)についていく形となった。1000m手前から少しずつ距離が開いていく。1000m通過は3' 13"。2000m手前から前との差を詰めていく。1000~2000mは3' 38"。ペースを少し上げるも、一周後苦しい走りになる。前との距離を保ったままゴール。ラスト1000mは3' 48"。

男子10000mW 決勝

2位 角川拓也(4) 46' 42" 79

5人の2位集団から最初の300mで抜け出し、400m通過は108"。単独2位となり1位を追う展開。入りの1000mは4' 24"。そのまま前後ともに徐々に離れ、自分のペースを刻んでいく。5000mの通過は22' 44"。大崩れすることなく歩き続け、ラスト1周でサングラスを上げスパートをかける。警告もなく、2位でフィニッシュ。

男子4×100mR 予選

2組3着 41" 90

岡崎(4) - 宮崎(1) - 南(4) - 高林(M2)

1走の岡崎はいつも通り軽快な走りですタートを切る。外側の選手と多少差が開くが、バトンパスをうまく決めて2走の宮崎につなげる。その宮崎は素早いピッチで周りとの差をぐんぐんと詰めていく。しかし、今大会1本目の100mで彼の本領は発揮されていないように見えた。3走の南は、宮崎とのバトンパスの時かなり詰まってしまったが、落ち着いたきれいなコーナリングを見せて先頭集団を追いかける。アンカーの高林は貫禄のある力強い加速を見せ、前の選手を猛追するも届かず、3着でフィニ

ッシュ。惜しくも決勝には届かなかった。

男子4×400m 予選

1組2着 3' 18" 53

高林(M2) - 岡崎(4) - 千葉(3) - 南(4)

1走の高林は緩やかなスタートから入ると200m付近で前を捉え始め、後半もスピードを落とすことなくそのまま後ろを突き放して2走へとバトンを繋ぐ。2走の岡崎はやや積極的に入っていくものの中盤後続に少し距離を詰められる。しかしラスト100mの粘りの走りで先頭の位置を譲らず3走へ繋ぐ。3走の千葉は積極的な入りで250mまで安定した走りで先頭を譲らず、ラスト100mでスパートをかけるとさらに後続を突き放してバトンをも4走へ繋ぐ。アンカーの南はスムーズな入りから、前半はテンポよく走っていた。しかし中盤から少しずつ距離を詰められ、ラストスパートでスピードが落ちてくるも終始安定した走りを見せ2着でゴール。決勝への進出を決めた。

男子4×400mR 決勝

8着 3' 24" 42

高林(M2) - 岡崎(4) - 南(4) - 千葉(3)

1走の高林は、スタート前のアクシデントにも冷静に対処し、前半はリラックスして走ると、後半はギアを切り替えてペースを上げていく。ラストの伸びで外側の選手を抜いて2走へつなぐ。2走の岡崎は前半から前の走者を積極的に追いかけ、大きなストライドと伸びのある走りで駆け抜ける。バトンパスは混戦となったがなんとか3走へ。3走の南は混戦のバトンパスからも順位を守り、いつも通りのリラックスした走りを見せる。スピードを維持しながら落ち着いてそのまま4走へつなぐ。アンカーの千葉は混戦を極めるレースの中、アクシデントもあったが、最後まで懸命に走り切り応援団に感動を与えた。1走の高林は、現役最後のレースを、堂々たる走りで飾った。

女子 4×100mR 予選

2組5着 59" 58

後藤(2) - 千葉(愛)(3) - 渡邊(1) - 井出(2)

1走の後藤は、前の選手が見えない8レーンからのスタートながら、自分の走りを見せて2走へつなぐ。2走の千葉(愛)は後藤とのバトンがつまり出遅れるが必死に前を追いかけて加速する。後半スピードが落ちたためか、3走渡邊に追いつかずバトンを落とし、大きなタイムロス。渡邊は落としたバトン拾ってスタートし、懸命な走りを見せて4走へとつないだ。アンカーの井出も最後まであきらめずに力強い走りでフィニッシュした。バトンパスでのミスが目立ったが、次のレースではミスなく相手と競り合うレースを見せてくれるだろう。

女子 4×400mR 予選

1組8着 4' 29" 52

千葉(愛)(3) - 渡邊(1) - 井出(2) - 後藤(2)

1走の千葉(愛)はスタートから体を起こすのが早かったように思われたが、後半までスピードを落とすことなく粘りの走りでも、オープンレーンに入る頃には前の走者との差が開き始めていた。しかし差を広げることなくそのままの位置を保ったまま3走へバトンをつなぐ。3走の井出はバトンもらってからかなり積極的に飛ばしていた。後半は減速したが、粘りのある懸命の走りでバトンを4走へつなぐ。アンカーの後藤は、前の走者との差が相当あり走りにくかったと思われるが、自分のペースを保ち、フォームが大きく崩れることもなくバトンをゴールまで運んだ。女子チームは4継、マイル共に同じメンバーで臨む負担の大きい状況下でのレースであったが、その分繋がり深いチームでもあっただろう。冬季練を乗り越えた女子チームの成績に期待したい。

◎フィールド

○跳躍

男子走高跳

3位 山田健太郎(3) 1m95

山田は1m85からの挑戦。1回目で難なく華麗に決める。続く1m90も余裕のある跳躍で、1回目で成功。ここまでは流石といった様子であろう。1m95は1回目で助走にばらつきが見られたものの、踏切を決めて力技でなんとかクリアする。続いて2m00に挑戦。1回目は助走が合わずにフェール。2回目は助走を修正して合わせるも、バーにぶつかって成功とはならず。3回目はさらに修正して助走でスピードにのることができたが、高さが足りずクリアできなかった。対校戦の度に安定した成績を残している山田だが、2m00の大台にはなかなか届かない。これからさらに力をつけて、念願の記録更新を果たしてほしい。

岡部大輝(3) 1m85

岡部も山田と同様1m85からの挑戦。1回目は惜しくもバーを落とすが2回目できちんと修正して成功させる。続く1m90はパスした。バネの温存を図ったのだろうか。その後1m95に挑戦するが、1、2、3回目とも助走に上手く乗り切ることが出来ずクリアできなかった。今大会では1日目に走幅跳、2日目に三段跳にも出場しており、少々疲れが出てしまったかもしれない。しかしながら力を出し切れていない印象でもあったので、山田と切磋琢磨しながら今後もこの競技を盛り上げてくれることだろう。

女子走高跳

8位 渡邊朝美(1) 1m45

渡邊は1m40からの挑戦。余裕のある跳躍で、1回目で成功させる。続く1m45も、助走を合わせて難なく1回目で成功。続いて1m50に挑戦。1回目は助走・跳躍の身体の動きが固くバーを落としてしまう。2回目は助走でうまくスピードにのるも、バ

一を越えることができない。3 回目は身体が突っ込んでしまい、本来の跳躍を見ることができなかった。辛くも入賞を果たすが、実力を出し切ることはできなかった。混成七種の走高跳では 1m51 と好記録を残したので調子は決して悪くないだろう。冬季練を経た後の彼女の活躍からも目が離せない。

男子走幅跳

田中悠貴(4) 6m09(+1.4)

田中の 1 本目の跳躍は、身体の動きが固く動きにキレがなかった。記録は 6m09(+1.8)。2 本目は 1 本目よりも体が動いており助走にもうまく乗れていたが、まだ本来の動きではなかった。記録は 1 本目と同様 6m09(+1.4)。跳びながら調子をつけていった 3 本目では最も助走にスピードがあり動きもよかったが、記録は伸びず 5m99(±0.0)で試技を終了。試技を重ねる毎にキレがよくなっていた分、後半の跳躍ももったいないが、徐々に調子を取り戻してしてくれるだろう。

岡部大輝(3) 6m74(+0.8)

岡部の 1 本目の跳躍は、まだ動きが固く助走のスピードにうまくのりきれていなかった。記録は 5m67(+0.4)と伸びない。2 本目は 1 本目よりもうまくスピードにのることができたが、最後踏切がつまり、もったいない 1 本となった。しかし記録は 6m74(+0.8)と 1 本目から大きく伸ばす。3 本目は助走も踏切も修正できたが、身体が高く浮きすぎてしまい距離を伸ばすことができなかった。記録は 6m72(+0.9)で、2 本目の記録が最高となった。

岡崎和貴(4) 6m67(+0.8)

岡崎の 1 本目の跳躍は、本来の動きが見られず身体のさばきにキレがなかった。記録は 6m67(+0.8)。2 本目は前半の助走が甘く、記録を狙って踏切を思い切るもファール。3 本目は修正しつつ記録を残すも、6m62(+0.2)と思うように伸ばすことができな

かった。普段の調子が出れば入賞も狙えただけに少々悔しい結果となってしまった。

女子走幅跳

後藤文子(2) NM

後藤の 1 本目は、助走でスピードにのれず、踏切もそのまま間延びして悔しいファール。2 本目は助走の足が合わず、踏み切れなかったため記録を残すことができない。3 本目に挑むも、助走のテンポが崩れ、踏切も合わず、ファールとなってしまった。前日の 4 継の疲労と慣れない場所での競技が影響したのだろうか。日々練習に励み調子を上げているので、冬季練明けの試合では納得のいく跳躍を見せてくれるだろう。

男子三段跳

田中悠貴(4) 13m27(+0.9)

田中は走幅跳に続いて対校に出場。1 本目の跳躍は、1 本目から助走でスピードにのり、踏切もつぶれず良い跳躍であった。記録は 13m27(+0.9)。2 本目は、助走と踏切の 1 歩目まではよかったものの、2 歩目で踏み切ることができず、距離を伸ばすことができなかった。記録は 13m13(+0.5)。3 本目は助走もよく、踏切の 1 歩目、2 歩目までしっかりと踏み込めていたが、3 歩目でつぶれてしまった。記録は 13m16(±0.0)であった。1 本目から調子が良かっただけに 2 本目以降の踏切が悔やまれる。踏切がつぶれないバネの強化が求められる。

須藤海(1) 13m85(+1.3)

須藤の 1 本目は、勢いのある助走で挑むものの踏切が合わずファール。2 本目は、1 本目のファールの影響か、踏切位置が踏切板より後方に大きくずれ、もったいない跳躍であった。記録は 13m19(+0.9)。3 本目は助走も踏切も少しずつ修正され、踏切もなんとか踏切板に載せることができた。この日最もよい跳躍であった。記録も 13m85(+1.3)と 2 本目から伸ばした。あと数センチで上位 8 名に食い込めただけに惜しい

結果でもあった。助走の勢いのよさには定評があるので、踏切を合わせる技術を磨けば、さらに好記録を狙えるだろう。

岡崎和貴(4) NM

岡崎の1本目は、助走と踏切を合わせてくるものの、砂場まで届かずに記録が残らない。2本目は1本目からの修正ができず、こちらも砂場まで届かずに記録を残すことができない。3本目の跳躍にかけ、勢いよく助走でスピードをつけるが、足が少し踏切板から出てしまい、ファールとなった。前日の競技の疲労も出てしまったのだろうか、走幅跳と並び好記録が期待されていただけに悔しい結果となった。

男子棒高跳

藤井翼(M1) 3m70

藤井は3m70からの挑戦。1本目で余裕のある跳躍でクリア。続いて3m90に挑戦。1回目は高さがあったもののバーを越えることができない。2回目は高さがあまり出ず、こちらもバーを越えない。3回目は助走の勢いこそよかったが、その勢いで突っ込んでしまう形になり、成功には至らなかった。結果最初の3m70が記録となった。

2位 高橋拓実(1) 4m70

高橋は4m60からの挑戦。1回目はアップライトが20cm手前になるも余裕でクリア。続く4m70の1回目は、助走・踏切ともに完璧な跳躍であったが、バーを越えられなかった。2回目は1回目同様の非の打ちどころのない跳躍でこの高さを成功させる。次に4m80に挑戦する。1回目では風に恵まれずバーを越えることができない。2回目はポールを押す力が弱く成功には至らない。3回目はアップライトが10cm手前で非常に惜しい跳躍であったが、バーを越えることはできなかった。しかしながら2位という好成績を収めた高橋。1年生ながら各大会で上位に入賞する実力を持ちながら、本人は現状には満足していないようだ。今

後の飛躍に注目したい。

○投擲

男子砲丸投

箕輪純尚(1) 9m06

箕輪の1投目は、グライドに勢いがなく、思うように記録が伸びない。1投目は8m88。2投目はグライドに入る姿勢があまりよくなかったが1投目より記録を伸ばして9m06。3投目は投擲に力強さがなく8m74と記録を落としてしまった。今後はグライドや投げる姿勢が課題となりそうだ。

佐藤雄也(1) 9m04

佐藤の1投目は身体が少し開いてしまう。記録は9m04。2投目はリリースのタイミングがずれてしまい、8m49と記録を落とす。3投目は勢いをつけるもののサークルの前から出てしまいファールとなった。前から出ないような練習と、投げの姿勢が今後の課題になるだろう。

男子円盤投

5位 石川遼(3) 35m58

石川の1投目は、セカンドターンの時に足の位置がいつもより右にずれ、円盤が手から抜けてしまった。2投目は再び足が右についてしまったが、円盤は抜けずに真っ直ぐ飛ばすことができた。全体的にまとまった投擲であった。3投目は入りが速く、勢いはよかったが円盤が抜けてしまった。2投目の記録で上位8人に残る。4投目は勢いがつきすぎたかファール。5投目はうまくまとめるものの、円盤を押し切れず記録を伸ばすことができない。6投目も円盤を押す力が足りずに、2投目の記録が最高となった。とはいえ、5位入賞を果たした。

女子円盤投

6位 青木千景(1) 30m05

青木の1投目は、円盤を引っ張りすぎてしまいファールとなる。2投目は少々高さがなかったものの距離は29m近くまで伸ば

す。3 投目は全体の流れがよく、勢いのある投擲であった。29m38 の記録で上位 8 人に残る。4 投目、5 投目とも流れの良い勢いのある投擲であったが 3 投目の記録には及ばない。しかし 6 投目では流れにさらにスピードをつけて、記録を 30m05 まで伸ばし、6 位入賞を果たした。

男子ハンマー投

石川遼(3) 32m16

石川の 1 投目は、本人が思っていたよりもよく飛んだらしく、記録を残す。しかし 2 投目、3 投目ともに同じ場所にハンマーが落ちてしまい、以降記録を伸ばすには至らなかった。ひとまずベストを更新した石川は、ハンマーに関する知識を身につけて来年の試合に臨みたいと語っていた。

田附遼太(M1) 28m13

田附の投擲は、総じてターンのリズムが安定しておらず、記録を思うように伸ばすことができなかった。また下半身に安定感がなく、踏ん張りも効いていないようであった。下半身を強化すれば、ターンも踏ん張りも安定するだろう。

男子やり投

中道和輝(4) 45m78

中道の 1 投目は肘の位置が下がり、あまり記録が伸びない。2 投目も肘の下がりがあったが記録を伸ばしていく。3 投目に意地の投擲を試みたものの勢い余ってフェールとなり記録を残すことができなかった。引退試合となった今大会、自己記録は更新できなかったが、現役最後として全力で臨んだ試合であった。

伊藤泰彬(3) 49m43

伊藤の投擲は、全体を通して助走でスピードを十分につけられず、記録も伸び悩んだ。3 投目までに修正することができず、記録を伸ばすことなく悔しい結果に終わった。上級生が引退していく中、やり投専門は伊藤のみとなるが、来年は主将としても奮起を期待したい。

4 位 杉本和志(M2) 59m29

現役最後の試合となった杉本。1 投目に 59m29 を記録し、後半に調子を上げる杉本にとっては好調な滑り出し。2 投目、3 投目はやりが浮いてしまい記録は伸びないが、全体 3 位で上位 8 人に残る。更なる記録の更新を狙って投擲を試みたが、以降記録を更新することはできず、他の選手に逆転を許して 4 位となった。投擲パートの要として最後まで戦い抜いた今大会であった。

女子混成七種

7 位 渡邊朝美(1) 3708 点

渡邊は最初の種目の 100mH で少々出遅れるも、続く走高跳では対校の部よりも良い記録を残し、砲丸投もまずまずの成績にまとめる。200mではマイルとこれまでの種目の疲労のためか、前半からキレがなく、後半も上がってこなかった。翌日の走幅跳では 4m89 の好記録を残すものの、やり投で少々出遅れてしまう。しかしながら最終種目の 800mでは全体 3 位のタイムをマークし、7 位に食い込んだ。4 継、マイル、対校種目に出場しながらの入賞は大健闘であろう。課題の残る種目もあったが、今後の練習と改善次第ではさらに高得点を狙っていけるに違いない。

○OB 対現役対抗戦(10/19)

今年もたくさんのOBの方に参加していただきました。結果を掲載します。

・トラックの部

氏名	100m(秒)	得点	1500m(秒)	得点	400m(秒)	得点	走最高得点
岡部大輝	11.60	733	343.30	337	55.60	576	733
岡崎和貴	11.61	731	314.79	479	53.01	682	731
藤井 翼	12.00	652	316.97	467	56.73	532	652
奥 裕之	11.87	678		0		0	678
石川 遼	11.95	662	406.49	107	65.39	249	662
須藤 海	12.64	532		0		0	532
千葉優人	15.69	116	306.90	522	53.37	667	667
向出周太	11.75	702	334.48	379	56.49	541	702
南 共哉	11.30	796	327.40	413	54.68	613	796
高橋拓実	11.64	724		0		0	724
佐藤弘隆	11.82	688	305.64	529	56.56	539	688
工藤航平	12.58	542		0	58.97	450	542
西京 毅	13.36	410	262.64	795	58.21	477	795
本間大輔	11.86	680	332.56	388	57.68	496	680
竹原 大	11.66	720	281.51	672	54.11	636	720
中道和輝	12.55	548		0		0	548
三上和樹		0	258.00	826		0	826
高橋仙一	13.06	459	260.69	808		0	808
佐藤文哉	12.31	592		0		0	592
工藤知央	12.43	570		0		0	570
小幡卓哉	13.00	469		0		0	469
阿部耕大	12.14	625		0		0	625
佐藤颯真	11.71	710		0		0	710
佐藤道由	11.76	700		0		0	700
進藤克哉	13.02	465	261.97	799	60.00	414	799
田中翔悟	12.77	509	269.95	746	56.63	536	746
彦坂幸毅	13.11	450		0		0	450
畠山真慈	12.09	634	359.50	267	65.33	251	634
早坂謙児	13.96	319	260.04	812	61.39	368	812
碓井将也	15.10	175	263.44	789	62.91	320	789
櫻井直輝	12.50	557	357.06	277		0	557
箕輪純尚	13.02	465	334.58	378		0	465
菅原大志	11.98	656	284.86	651	52.70	695	695
増田俊太郎		0	301.20	554		0	554

八柳 暁	13.45	395	422.46	68	66.21	227	395
岩井一馬	13.56	378	264.12	785	60.15	409	785
熊谷 駿	14.31	271	283.87	657	62.72	326	657
佐藤基明	14.53	242	310.68	501	59.98	415	501
佐藤洋介		0		0	53.66	655	655
富田 航	14.10	299	295.11	589	64.48	274	589
大野慎也	12.94	479	263.21	791	57.81	492	791
保坂佑斗	12.59	541	321.56	443	61.07	378	541
佐藤泰介	15.59	125	298.78	568	68.21	178	568
吉田真人	13.57	377	293.30	600		0	600
久保正樹	13.51	386	327.13	415		0	415
村田晃太郎	12.60	539		0		0	539
畑岡 進	12.20	613	332.56	388		0	613
高橋慧伍	13.36	410	281.52	672		0	672
佐藤雄也	14.47	250		0		0	250
中西悠悦	15.87	100	298.42	570		0	570
本田雄生		0	290.78	615	61.14	376	615
醍醐賢輔		0	264.36	783		0	783
井上史崇		0	311.18	498		0	498
西井大樹		0	289.08	625		0	625
渡邊裕生	14.90	198		0		0	198
増村 巧		0	373.22	214		0	214
安食雄太郎	14.34	267		0	66.23	227	267
田中悠貴		0	366.89	238		0	238
真山隆徳	15.30	154	333.54	383		0	383
佐々木優人		0		0		0	0
宝田拓馬	13.38	406	289.83	621	62.02	348	621
日向野楓		0	298.18	571		0	571
荻原大樹		0		0	65.35	250	250
遠藤久則		0		0		0	0
古澤元一		0	332.35	389		0	389
山田健太郎		0		0		0	0
安井 令		0		0		0	0
金子修平		0		0		0	0
渡邊朝美	14.65	507	332.09	628		0	628
浅見恭子	13.22	732	400.29	291		0	732
青木千景	14.87	476	358.01	486		0	486
千葉愛里沙	13.69	654	408.11	260	75.15	216	654
榊原真理子		0	326.61	660		0	660

後藤文子	14.76	492	484.11	47		0	492
塩谷美菜子		0	329.61	642		0	642
山田千夏		0	372.12	416		0	416
菊地のぞみ		0	485.12	45	75.15	216	216
吉田 歩		0		0		0	0
星麻沙美		0	484.86	46		0	46

・フィールドの部と総合得点

氏名	幅	得点	高	得点	最高得点	砲丸	得点	円盤	得点	最高得点	総合
岡部大輝	645	687	185	671	687	8.86	418	20.35	280	418	1838
岡崎和貴	647	692	170	545	692	7.14	317	25.00	368	368	1791
藤井 翼	626	645	155	427	645	9.71	469	29.3	452	469	1766
奥 裕之		0	175	586	586	8.29	385	22.40	318	385	1649
石川 遼	512	406	130	251	406	9.78	473	35.63	577	577	1645
須藤 海	590	566	160	465	566	8.78	414	30.85	482	482	1580
千葉優人	601	590	150	390	590	6.87	301	21.42	300	301	1558
向出周太	534	450	150	390	450	7.98	366	18.96	254	366	1518
南 共哉	546	474	160	465	474	5.84	241	12.26	132	241	1511
高橋拓実	591	568		0	568		0	16.54	209	209	1501
佐藤弘隆	565	513	165	505	513	6.78	295	20.98	291	295	1496
工藤航平	561	505	160	465	505	8.72	410	22.78	326	410	1457
西京 毅	484	353	135	284	353	6.79	296	14.85	178	296	1444
本間大輔	541	464	140	318	464	6.23	263	14.04	164	263	1407
竹原 大	518	418	130	251	418	6.31	268	17.78	232	268	1406
中道和輝		0	155	427	427	8.52	398	19.42	262	398	1373
三上和樹		0	135	284	284	6.18	260	13.80	159	260	1370
高橋仙一	465	318	140	318	318	5.89	243	11.36	117	243	1369
佐藤文哉	574	532		0	532	5.80	238	17.14	220	238	1362
工藤知央	535	452	140	318	452	7.49	337	20.39	280	337	1359
小幡卓哉	601	590	155	427	590	6.83	298		0	298	1357
阿部耕大	503	389		0	389	7.40	332	17.07	219	332	1346
佐藤颯真	603	594	180	628	628		0		0	0	1338
佐藤道由	470	327		0	327	6.53	281		0	281	1308
進藤克哉		0	135	284	284		0	17.35	224	224	1307
田中翔悟	470	327	135	284	327	5.34	212	15.25	186	212	1285
彦坂幸毅	505	393		0	393	8.42	392	28.30	432	432	1275
畠山真慈	500	383	130	251	383	5.89	243	15.62	192	243	1260
早坂謙児	421	241	120	189	241	4.99	191	12.04	128	191	1244
碓井将也		0	130	251	251		0	14.72	176	176	1216

櫻井直輝	488	361		0	361	6.23	263	15.37	188	263	1181
箕輪純尚	439	272		0	272	9.25	442	19.16	257	442	1179
菅原大志	483	351		0	351	3.73	120	9.52	85	120	1166
増田俊太郎	475	336	140	318	336	6.45	276	18.14	238	276	1166
八柳 暁	490	364	125	219	364	8.07	371	26.79	403	403	1162
岩井一馬	362	148	115	160	160	5.36	213	12.55	137	213	1158
熊谷 駿	478	342	125	219	342		0	13.74	158	158	1157
佐藤基明	480	346	150	390	390	5.75	235	13.29	150	235	1126
佐藤洋介		0	145	353	353		0	10.41	100	100	1108
富田 航	475	336	120	189	336	4.40	158	12.03	128	158	1083
大野慎也		0	135	284	284		0		0	0	1075
保坂佑斗	448	288	120	189	288	5.61	227	11.62	121	227	1056
佐藤泰介	461	311	100	82	311	4.11	141	9.72	88	141	1020
吉田真人	403	212		0	212	4.40	158		0	158	970
久保正樹	471	329		0	329	5.39	214		0	214	958
村田晃太郎	405	215		0	215		0	15.35	187	187	941
畑岡 進		0		0	0	7.29	325	13.83	160	325	938
高橋慧伍		0	130	251	251		0		0	0	923
佐藤雄也	399	205		0	205	9.67	467	21.6	303	467	922
中西悠悦	312	81	120	189	189	4.10	141	10.9	109	141	900
本田雄生	352	134		0	134		0	9.70	88	88	837
醍醐賢輔		0		0	0		0		0	0	783
井上史崇		0	135	284	284		0		0	0	782
西井大樹		0		0	0	4.20	146	7.82	57	146	771
渡邊裕生	410	223		0	223		0	21.58	303	303	724
増村 巧	537	456	140	318	456		0		0	0	670
安食雄太郎	442	277	120	189	277	3.80	124	6.85	41	124	668
田中悠貴	502	387	155	427	427		0		0	0	665
真山隆徳	316	86		0	86	4.81	181		0	181	650
佐々木優人	0	0	140	318	318	7.22	321	18.76	250	321	639
宝田拓馬		0		0	0		0		0	0	621
日向野楓		0		0	0		0		0	0	571
荻原大樹		0		0	0	6.12	257		0	257	507
遠藤久則	372	163		0	163	5.75	235		0	235	398
古澤元一		0		0	0		0		0	0	389
山田健太郎	0	0		0	0	6.97	307	20.48	282	307	307
安井 令		0		0	0		0	17.74	231	231	231
金子修平		0		0	0		0	15.97	199	199	199
渡邊朝美	447	422	140	513	513	8.39	426	18.04	244	426	1567

浅見恭子	483	515	140	513	515	6.71	317		0	317	1564
青木千景	412	337		0	337	8.44	429	30.65	476	476	1299
千葉愛里沙	413	339	120	313	339	5.87	264	15.30	195	264	1257
榊原真理子	310	125		0	125		0	10.96	121	121	906
後藤文子		0	115	267	267		0	12.41	146	146	905
塩谷美菜子	227	11		0	11		0	8.59	82	82	735
山田千夏	300	108		0	108	4.39	171	5.96	41	171	695
菊地のぞみ		0		0	0		0		0	0	216
吉田 歩		0		0	0		0	12.18	142	142	142
星麻沙美		0		0	0		0		0	0	46

○「全レンヌを走る日」(10/13) 於 フランス共和国レンヌ市

仙台市の国際姉妹都市であるフランス共和国レンヌ市において、10月13日に開催された「全レンヌを走る日」に、宮間志帆(2)が仙台市から男女各一名の枠に選ばれ、参加してきました。宮間のコメントを紹介します。

「全レンヌを走る日」に参加して

宮間志帆

10月13日、仙台市と国際姉妹都市であるフランス共和国レンヌ市との国際姉妹都市交流の一環で、毎年レンヌ市で開催されているロードレース大会「全レンヌを走る日」の派遣選手として、東北学生陸上競技連盟及び仙台市より選考していただき、初めて海外のレースを経験して参りました。

昨年まで2年連続、東北大学の先輩方が参加されており、お話を伺っていたので、自分もレンヌに行きたいと切実に願っていました。選ばれたときは嬉しくて仕方ありませんでした。

レンヌに到着してからの数日間は、楽しみにしていたレンヌの方々との交流や現地の食事、文化等を存分に楽しませていただきました。初めてのヨーロッパだったので、何もかもが新鮮な感覚でした。レンヌの方々には私たち日本人をとってもあたたかくもてなして下さいました。

私が出場した国際ルノーカップ女子5kmのレースは、ケニアやエチオピアのようなアフリカ勢がほとんどで、アジア圏の選手は私だけでした。結果は18分29秒で27位と、仙台市の代表として情けないものでしたが、貴重な経験になりました。アフリカ勢選手には力の差をじかに見せ付けられましたが、そんな選手と同じレースに参加できたことに大きな価値がありました。

また、レース当日は私の二十歳の誕生日でした。レース中にフランス語でアナウンスがあったようで、沿道から沢山の応援がありました。さらに、レース後も現地の方々に祝っていただきました。選考していただくまでは、まさか二十歳の誕生日をフランスで祝っていただけるとは思ってもいなかったもので、本当に幸せでした。

「全レンヌを走る日」に参加して、非常に有意義でした。お世話になった仙台市役所や東北学生競技連盟の方々には大変感謝しております。これからもこの経験を生かし、練習に励みたいと思います。今後とも応援よろしく願いいたします。

○第 29 回日本ジュニア陸上競技選手権大会(10/18～10/20) 於 瑞穂(愛知県)

10月18日から10月20日に行われた第29回日本ジュニア陸上競技選手権大会に宮崎幸辰(1)が出場し、男子200mで3位に入賞する優れた結果を残しました。宮崎のコメントを紹介いたします。

日本ジュニアを振り返って

宮崎幸辰

私は、10月18～20日に開催された日本ジュニア選手権大会の200mに出場しました。結果は、21”35で3位というものでした。豪雨、低温の中でパフォーマンスが低下する中で、全国の舞台で十分に勝負できたことは評価できますが、準決勝よりタイムが落ちたことやラスト50mからの失速など課題がたくさんあります。来年は、全日本インカレに出場するので、今大会以上の実力が発揮できるように課題を修正したいと思っています。

今回、私がジュニアで入賞したことで、東北大学陸上部を少しでも盛り上げることができたのであれば幸いです。しかし、部の行事を休んでジュニアに出場してしまったことは反省すべきことです。個人の大会を優先させてしまったことを心よりお詫び申し上げます。今後も、皆さんの期待に応えられるように精一杯頑張ります。

最後になりますが、応援してくださった方々に感謝を申し上げます。本当に、ありがとうございました。



写真：表彰台に立ち賞状を受け取った宮崎

○第 31 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 於 仙台市

杜の都仙台を舞台に開催されました。この大会は、昨年度上位6位までに入賞したシード校、各地区を勝ち抜いた代表校、東北学連選抜(オープン参加)で争われます。

東北大学からは鈴木(3)、宮間(2)が東北学連選抜として選ばれていました。当日は宮間が3区、鈴木が5区を走ることになりました。

出場選手からのコメントを紹介します。

全日本大学女子駅伝を終えて

鈴木絢子

10/27に行われました第31回全日本大学女子駅伝にて、東北学連選抜チームとして5区を走らせていただきました。

一昨年、昨年に引き続き3回目の出場でしたが、今年はケガや不調に悩まされたシーズンでしたので、最長区間である5区を走ることには不安ばかりがありました。

しかし、多くの人に励まし応援していただき、当日は落ち着いた気持ちでスタート地点に立つことができました。レースは、私が前区間の4区の選手から襷を受け取った時点で

トップとの差は9分4秒。トップ差が10分に達した時点で繰り上げスタートですので、襷を最終区間の走者へつなぐことはかなり厳しい状況でした。それでも、レース中は気持ちを切らすことなく全力を出し尽くすことができました。それはやはり、沿道からのたくさんの方々の声援の力によるものです。本当にありがとうございました。

結果としましては、チームは22位相当、私の区間順位も22位と、決して誇れるような順位ではありません。さらに今年は襷をつなぎ切ることができないという悔しさも味わいました。全国との実力差をまざまざと思い知らされる大会となりましたが、この悔しさをバネにし、自分自身のレベル向上に努めてまいりたいと思います。

最後になりましたが、全日本女子駅伝に出場するにあたり、大会運営に尽力して下さった方々をはじめ、部員の皆さんやOB、OGの皆様など本当に多くの方々にご支援とご声援をいただきました。心から感謝申し上げます。この経験を生かし練習に励んでまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

全日本大学女子駅伝を終えて

宮間志帆

10月27日に仙台市内で行われました、第31回全日本大学女子駅伝において、東北学連選抜チーム3区(6.8km)の選手として出場しました。

チームとしての結果は、2時間17分34秒で、昨年のように襷を繋げる事が出来ず、順位も22位相当で昨年より良くありませんでした。

また、個人としては2年連続出場でしたが、区間22位で、順位を上げる事が出来ず、不甲斐ないものでした。昨年は初めての全国大会という事が本当に嬉しくて、楽しむレースが出来たのですが、今年は試合で走ったことのない距離であったために少し不安があったのに加え、襷を受け取った位置からは前も後ろも選手が見えず、競争出来なかったことから、消極的で不完全燃焼なレースになってしまいました。結果的に襷が繋がらない原因になってしまったことに悔しく思っています。そんな中、単独走の私を応援して下さった皆様には感謝しております。今大会の悔しさを糧に、今後も練習に励んで参りたいと思います。

最後に、この大会で昨年同様マネージャーとして私たちのために準備をしてくれた真璃子、運営や応援、サポートをして下さった部員の皆様、遠方から応援に来て下さったOB・OGや関係者の方々に心から感謝申し上げます。今後とも応援よろしく願いいたします。

○秩父宮賜盃第 45 回全日本大学駅伝対校選手権大会 於 名古屋～伊勢神宮

9月15日に仙台大学で行われた東北地区予選を1位で通過し、4年ぶりの出場となりました。

今年は歴代最高タイムの更新を目標に臨みましたが、力及ばず達成には至りませんでした。しかしながら学部4年生や院生のみならず1年生が2人正選手に抜擢されており、後輩も徐々に育ってきております。また、11日17日に行われた宮城県駅伝で、東北大学Aチームが2連覇を達成する結果を残し、今後の活躍が期待されそうです。宮城県駅伝については次号で詳しく掲載いたします。

各区間を走った選手と、今大会まで長距離PCを務めた西井(3)からコメントを頂きました。

第1区 尾形翔平(M1)

先日行われた全日本大学駅伝におきまして、一区を走らせて頂きました。私にとって一区はずっと憧れていた場所で、走らせて頂けることに感謝しつつ、自分の区間でしっかりとチームに良い流れを作ろうと意気込んで臨みました。予選会を終えてから何度も一区を想定した練習を重ねてきましたが、本戦では序盤からのハイペースでリズムをつかめず、苦しい走りとなってしまいました。目標タイムには遠く及ばず、他大学のエースたちとの力の差を改めて感じさせられる結果となりました。しかし、今回の(予選会から本戦までを含めた)経験が、ある種の自分の殻を破るきっかけになったと感じています。また、チームとしては国公立大最上位、かつ前回のタイムを上回る成績を残すことができ、来年につながる走りができたと思います。あと一年この部に残ることができるので、もっと強くなって、また来年伊勢路に戻ってきたいと思います。

応援して下さいました皆様ありがとうございました。

第2区 藤澤萌人(4)

全日本大学駅伝で2区を走りました藤澤萌人です。

2区は各校のエース級の選手が集まる区間であり、全日に出場が決定した時は自分が2区を走るなどとは全く考えてもいませんでした。もちろん“絶対に伊勢路を走りたい”という気持ちはありましたが、今年の東北大チームは上位層の実力が拮抗していたのでその中で2区を走ると知った時は驚きが大きかったです。その反面自分の実力でどこまで戦えるのかと考えるととてもわくわくしました。



写真：1区を走り出す尾形

レースの内容は、タイムは納得いくものでは無かったですが最後までへばることなく後半にペースを上げていったという良かった点もありました。これは後半に沿道の応援が増えたこと、特にOBの方々や東北大陸上部の仲間の応援のおかげで、自分でもぐんぐんペースが上がるのが分かりました。しかし結果を言ってしまうと区間最下位であり襻渡しもギリギリというとても悔しい結果でした。しかし今回で全国での東北大学の位置や自分の実力など得られたものも多く、来年はもっと上を目指せるよう努力していきたいと思います。

今回の全日本大学駅伝ではOBの方々や応援・サポートをしていただいた陸上部員の皆さんに大変お世話になりました。本当にありがとうございました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。来年もぜひよろしくお願いたします。



写真：2区を力走する藤澤

第3区 出口武志(1)

今回の全日本大学駅伝では三区を走らせていただきました。東北大学は過去にもこの大会に出場したことがあり、それも考えて東北大に入学したので一年目から走ることができたことに大きな喜びを感じています。振り返ってみると春先からほどほどには走っていたのですが、それ以降自分が伸び悩む一方で他の選手がどんどん調子を伸ばしていったので最後まで本大会で走れるかどうかわからない状況で不安を感じてばかりいました。しかし、最後まで投げ出さずに本番まで調整をしていくことができました。これも周囲の理解や協力があったからだと思います。本当にありがとうございました。今回の大会から個人や部が得たものはとてもたくさんあるはずです。そのなかでも自分にとっては来年度に向けたモチベーションが今回の一番の収穫です。全日本への出場だけでなくもっと上を目指せるように頑張っていきたいと思います。



写真：3区を走り抜ける出口

第4区 齊藤寛峻(4)

今年東北大学は4年ぶりに全日本大学駅伝に出場しました。ここ3年は毎年惜しくも出場を逃してきたので今回出場できたのはとても嬉しかったです。

結果に関しては個人的にはとても楽しく走れましたし大きな失敗ありませんでした。全体としても誰ひとり崩れることなく走れ、目標としていた大学には勝つことができました。この1年ずっとやってきた、安定した走りをする練習の成果が発揮できたのではないかと思います。

しかし今回の記録は部記録には遠く及ばないものでした。今回は部記録の更新を第一目標としていたので僕にとって今回の結果はとても悔しいものでした。難しいことは分かっていますが今年のチームなら不可能ではないと思っていました。しかし完全に力不足でした。部記録更新を達成するには全員がもっと力をつけなければなりません。僕は来年大学院に進むのでこれから1年間部記録更新という目標に向け頑張っていきたいと思っています。



写真：4区を駆け抜ける齊藤

第5区 石代剛之(M1)

全日本に出場するにあたり、OB・OGの方々のご支援・ご声援、本当にありがとうございました。

以前から、東北大学、チームとして全日本に出場するということが目標でした。最後の年ではなく、あと一年ある今年に出場できたということは、とても大きな意味があると思っています。さらに、初めて全国の舞台を走ることができたことも良い経験となりました。総合順位は目標を達成することができましたが、個人としては満足のできるものではありませんでした。まだ、チーム・個人ともに伸び代があると思っています。

来年の目標は連続出場・東北大記録の更新です。選手として、あと一年と短い時間ですが、これからの陸上部の流れを作りたいと思っています。悔いの残らないように、来年の予選会・全日本に向けて今まで以上に頑張っていきますので、今後ともご支援・ご声援よろしくお願い致します。



写真：5区を走り終え襷を渡す石代

第6区 本間涼介(1)

この度6区を走らせていただいた本間涼介です。私はまだ1年生で、昨年までこの駅伝は憧れの大会でした。春、この陸上競技部に入部し、先輩たちの全日本にかけける思いに刺激され、私も絶対にこの大会に出るという目標を立てて練習に臨んでいました。大会当日、周りには関東の強豪校の選手が数多く揃い、私は興奮と共に緊張もより増していました。襷を受け取ってからは、他の国立大学と競る展開であり、6区12.3kmという距離の中、ラスト1kmというところまで競り続けました。しかしスパートで負けてしまい力不足を痛感しました。ここまでの陸上人生で一番の悔しさでした。この悔しさと、経験を忘れずに、また来年リベンジするためにも練習を積んでいきたいと思います。

最後になりましたが、たくさんの応援やご支援ありがとうございました。



写真：襷を受け取り走り出す本間

第7区 菅野均(M1)

今回、私は7区を走らせていただきました。残念ながら7区で東北大は2度目の繰り上げスタートとなり、襷をもらうことも渡すこともできず、ロードレースのような展開になってしまいましたが、全国の舞台の緊張感の中、力のある選手たちとの勝負はとても楽しかったです。OB・OGの皆様の声援はとても心強く、苦しい時の力となりました。はるばる伊勢まで応援に駆けつけてくださり、誠にありがとうございました。

チームとしても、個人としても今ある力はある程度発揮できたと思います。しかし、全国の中で見ると、上にはまだ多くのチームが存在し、さらに成長する必要があると身を持って感じました。出場した選手はもちろん、サポートとして参加した下級生も大いに刺激を受けたようで、大会後、高い意識を持って練習に取り組み、切磋琢磨しております。今回の大会は来年へ向けてのスタートでもあります。来年さらに成長した姿をお見せできるように努力してまいりますので、これからも応援よろしくお願い致します。



写真：7区を務めた菅野

第8区 高橋佳希(2)

私は松坂市からゴールである伊勢神宮までのアンカーである8区を走らせていただきました。先月に行われた出雲駅伝のほうで東北学連選抜チームの一員として全国の舞台を経験させていただき、多少は気持ちの面でも余裕をもって迎えることができました。

しかしながら、初の20k近い距離のレースであること、大会が重なり調整が予想以上に難航したこと、そして東北大学のチームとして走ることへのプレッシャーなど不安要素も抱えていました。

実際に本番では思うようにペースが上がらず、順位、タイムともに満足いくものではありませんでした。来年は今回の貴重な経験を活かし、まずはしっかりと本戦への出場権を獲得し、本戦では今年以上の走りができるようにこれからも精進していきたいと思えます。

最後になりますが、多大なご協力をいただいたOB、OG、他パートの方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



写真：アンカーを務めた高橋

前長距離PC 西井大樹

前長距離PCの西井です。先日は全日本大学駅伝の応援、本当にありがとうございました。選手は一人も大崩れすることなく、勝てそうな大学にはすべて勝つことができ、前回記録は超えることができました。選手は力を十分に発揮することができました。

しかし、目標であった歴代最高タイムには6分以上及びませんでした。力を出し切ってこの結果ということで、まだまだ力不足であることを痛感しました。

今回の出場で自分たちの現状が分かり、今後目指すべきものがはっきりと見えました。今年のメンバーは8人全員が来年も残る予定ですので、今回走れなかった人も含めてまた1年頑張っていきます。

最後になりますが、多大なるご支援ありがとうございました。金銭的なご支援や試走のサポート、当日の応援等とてもありがたかったです。おかげさまで選手は万全の状態で走ることができました。

来年以降も出場し続けるために努力していきますので、今後のご支援よろしく願いいたします。



写真：PCの任期を終え胴上げされる西井

○自己ベスト更新者一覧

- ・男子 200m
宮崎幸辰(1) 21"15(日本ジュニア)
- ・男子 5000m
早坂謙児(1) 16' 03"21(二十三大戦)
南雲信之介(2) 16' 05"28(二十三大戦)
- ・男子 110mH
工藤知央(2) 15"25(二十三大戦)
- ・男子 400mH
工藤知央(2) 54"35(二十三大戦)
佐藤弘隆(1) 56"14(二十三大戦)
- ・女子 1500m
榊原真璃子(2) 5' 18"45(個人戦)
- ・女子 5000m
宮間志帆(2) 17' 29"39(個人戦)
榊原真璃子(2) 19' 20"78(個人戦)

○秋季三秀総会のお知らせ

平成 25 年度秋季三秀総会を下記のように開催いたします。皆様ご多忙の折りとは存じますが、ご参加いただきますようご案内申し上げます。

日時 12月21日(土) 16時～ (幹事会:15時～)

場所 東北大学理学部キャンパス物理大講義室



○今後の日程

12月21日 秋季三秀総会

3月 春合宿

○編集後記

今回からOB通信を担当させていただきます、熊谷と申します。今回のOB通信作成にあたりましては、前担当の千葉愛里沙さん、久保さんをはじめとした沢山の方々にご協力いただきました。沢山の選手が全国、あるいは海を越えて活躍してきたことを余すところなく伝えるべく、作成にお時間を頂戴いたしました。11月中の発行に間に合わせる事ができず、申し訳ございません。しかしながら内容の充実した出来となりました。

今後1年間担当させていただきますが、陸上競技部の活動を皆様にお伝えする役割に責任を持って取り組んで参りたいと思っております。至らない点も多いですが、努力して参りますので、どうぞよろしく願いいたします。

文責 副務 熊谷翔子